

## 自動走行ビジネス活用アイデアを募集します！

- 自動走行を社会に根付かせる環境づくりを進めるため、サービスの質の向上や人手不足の緩和などにつながる活用方法について、自動車を活用したビジネスを展開されている企業の皆様からのアイデアを募集します。
- いただいたアイデアは、自動走行の研究開発を行っている企業に提案し、実現可能な提案については具体化する取組に結び付けます。

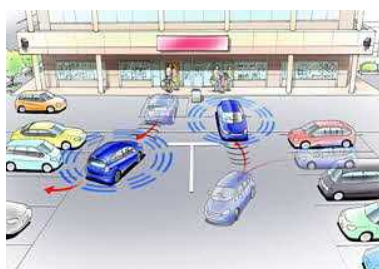
### ビジネス利活用のためのアイデア例

#### 【バリアフリー観光】

観光敷地内での自動走行による移動手段を提供することで、これまで移動に対して消極的だった足腰が不自由な方等による観光を実現。とりわけ、敷地面積が広い施設においては、自動走行による安全安心な移動空間創出による効果が大きいと考えられます。



#### 【バレーパーキング】



空港のレンタカー受付カウンターと営業所(貸渡場所)とは、一定の距離があり、この間の送迎を自動走行車で代替したり、レンタルした車両を自動走行で呼び出すなどにより、業務効率の改善と観光客等顧客満足の向上を同時に実現すると考えられます。

### 自動走行のタイプについて

現在、研究開発されている自動走行技術は、①運転者が乗車するタイプと②運転者が乗車せず遠隔操作するタイプに大別されます。①は、さらに①-1あらかじめ特殊な測量により作成した3D地図情報と、リアルタイムの地形情報の照合等により、自位置を特定して走るタイプと、①-2あらかじめ道路に電磁誘導線を施工し、それを線路と見立ててなぞるように走行するタイプに分けられます。

また、②は、遠隔操作のための車両及び操作システムを導入する必要がありますが、一人で複数台の運用が可能という強みもあります。

### アイデア提案によるメリット

自動走行の技術開発は日々行われている最先端分野のため、導入の可否やコストなどは自動走行の研究開発をしている企業にアイデアを投げかけていく中で、個々に検討されることとなります。これにより、自動走行の研究開発を行っている企業との連携による試行が可能となる場合や、技術面での可否などをアイデア段階で確認することができ、アイデアのブラッシュアップが可能となります。

(裏面へ続きます)

## アイデア提案から実施まで

## ① アイデア出し

- ・道内に拠点のある事業者でしたら、事業者単独、事業者連合など組織形態を問わず提案いただけます

## ② 提案書の作成

- ・記入例を参考に提案書の「本紙」及び「別葉」を記入してください
- ・記載しきれない箇所は空欄でかまいません

## ③ プランの提出

- ・郵送、持参またはFAXにより事務局あて随時提出ください

事務局

- ・疑問点・問題点等の整理

## ④ 自動走行研究開発企業(テクニカルパートナー)へ提案

- ・自動走行研究開発企業に提案し、各企業の研究テーマとの親和性等を勘案しながら、実施可能性を検討するよう依頼し、回答を事務局がとりまとめます

## ⑤ 提案者へフィードバック

- ・事務局より、現時点での技術的可否などをお返しします

## ⑥ 関係機関との調整

- ・アイデア提案者と自動走行研究開発企業との間で、実証試験を行うか等の検討に必要な仲介を行います

## ⑦ 事業実施

提案者が行います

事務局が行います

提案者と事務局が  
相談しながら行  
います

北海道自動走行ビジネス化調査研究プラットフォーム



(事務局)北海道経済部 産業振興局産業振興課ものづくり産業グループ(IT)  
担当:田村、金子 電話:011-206-6756(直通)  
FAX:011-232-2139